

ずいそう

## 引越し

横井 真二



本誌の読者のほとんどは会社員でいらっしゃると思うので、勝手に推測致します。するとその何割かの方々には転勤の経験もありでしょうし、就職以前にも転居の経験もありではないでしょうか？ その転居の回数のお話です。私は今年48歳になったのですが、現在の住居が26軒目の住まいになります。この26軒と言うのが多いのかなのか？ きっと読者の中には「なんだそんなものか。自分はずっと多いよ」と仰る方もいれば「え！？ 2年に1回以上も住まいが変わってる計算になるね、考えられない」と仰る方もいらっしゃると思います。今まで私の周囲の方は圧倒的に後者の方が多いので、この「26」と言う数字は少なくないのかもしれないかもしれません。生まれたのは東京の世田谷、昭和34年ですので近年話題になった映画「三丁目の夕日」そのままの風景が原体験として記憶の隅に残っています。

父親は普通の民間の食品会社の社員でしたが、当時の高度経済成長の波に乗り、昭和一桁生まれのモータリ社員として働いていたことでしょう。社命により私が生まれた後、横浜、また都内の足立区そして名古屋に移り住みます。父親の勤務地は本社、支店、営業所で変わったのかどうかは尋ねたこともないので分かりませんが、特徴として一つの市の中で転居するケースがその後も続いたのです。名古屋市の中で都合三回、福岡市、広島で2回とここまでで9回です。当時、妹は中学3年でしたが学期を跨いで引っ越したおかげで修学旅行を2回同じ年に行ったのですが、転校と同時の修学旅行は友人もいなく寂しい思いをしたようです。また制服や教科書がその都度変わることから母親は「お金が掛かるね」と話していたのを思い出します。高校卒業と同時に家を出たのですが進学に際しいろいろ紆余曲折(笑)がありまして、広島から福岡、東京、

神奈川そしてまた都内へと舞い戻って来たのです。

就職してから今度は会社都合で転勤を伴うことがない転居が続き鳥取県の米子市で2回、岡山県岡山市で2回そして山口県の防府市に行くことになりました。そこで家内と知り合ったのですが、まだ結婚前にまたまた転勤で愛知県の岡崎市に転勤、その後再び山口県の山口市に戻り独身生活を送り、結婚して新居を構えました。ここまでで21回になります。

その後も社命により山口県内で2回転勤、転居をし次に25年ぶりの九州は長崎県佐世保市に辿り着いたのです。3年住み現在の勤務地の所在地である福岡県に転居したのですが、子供の進学のタイミングもあり半年は単身赴任し5年前に今の住まい「26軒目」に住んでいるのです。転校、転勤、転居の功罪をこの場で論ずるのは本意ではありませんが、いろんな土地、いろんな文化に触れられたことは間違いなくプラスであると思います。ですから良く尋ねられる「どこが良かった？」と言う質問にはなかなか答えられないのですがもう一つ答え難いのが「どちらの出身ですか？」ですね。何しろ入った学校(幼稚園、保育園含む)と出た学校が全部違う上に今両親が住んでる三重県の津市は帰省はするものの生まれ育った場所ではなく、毎回返答に苦慮しますが大体「生まれたのは東京ですが、あとはいろいろです」とお答えしております。さて既に5年経過したこの福岡の地も何時までいるのかは全く分かりませんが、退職するまでいや死ぬまで後何回転居があるのか自分でも密かな楽しみにしています。今度はあなたの住む街に行くことがあるかもしれませんね！

—よこい しんじ 日立建機(株) 西日本事業部  
九州北支店 支店長—